

## 水稻の出穂10～15日前までに、水田畦畔や雑草地、牧草地の草刈りを必ず実施し、斑点米カメムシ類の密度を低下させましょう。

### 現在の状況

- 1 イネ科牧草であるイタリアンライグラス（写真）主体の牧草地では、7月第1半旬から第3半旬にかけてカスミカメムシ類幼虫の発生を確認している（図1）。
- 2 7月上旬の水田畦畔すくい取り調査（39圃場）では、カスミカメムシ類の発生圃場率はほぼ平年並である（図2）。
- 3 畦畔の草刈りが未実施の場合、カスミカメムシ類のすくい取られる圃場割合が高い（図3）。

### 防除対策

- 1 水稻出穂期に本田内へ侵入するカスミカメムシ類の密度を低下させるため、**水稻の出穂10～15日前までに水田畦畔や農道の草刈りを必ず実施**する。なお、水稻の生育は7月9日現在、平年並である。
- 2 地域内に**イネ科雑草**が残されていると、カスミカメムシ類の発生源となり近隣の圃場に侵入するので、草刈りは**地域一斉**に行う。
- 3 本田内の**ノビエ、イヌホタルイ、シズイ**等の雑草は、アカスジカスミカメの発生源となって被害を助長するので、これら雑草がある圃場では本田内の除草を徹底する。



写真 イタリアンライグラスに寄生するアカスジカスミカメ(成虫)

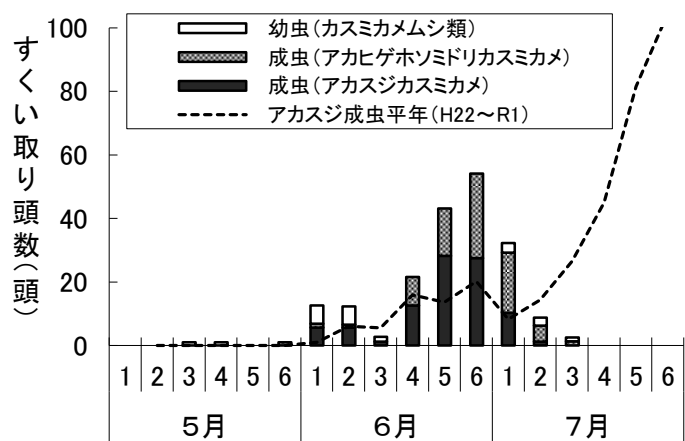


図1 牧草地におけるカスミカメムシ類の発生推移（7月第3半旬現在、農研センター内イタリアンライグラス作付圃場、往復20回振）

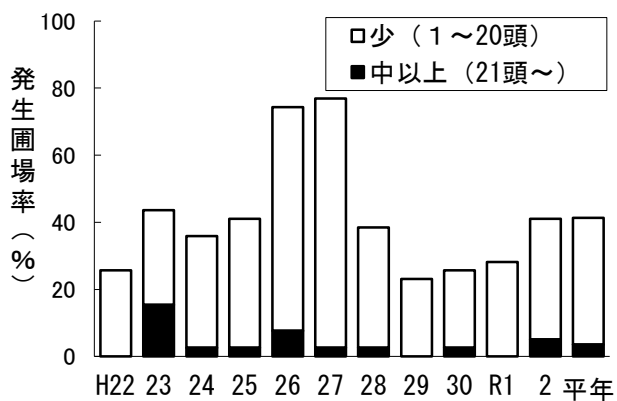


図2 斑点米の原因となるカスミカメムシ類の発生圃場率  
(7月上旬巡回調査、水田畦畔、往復20回振)

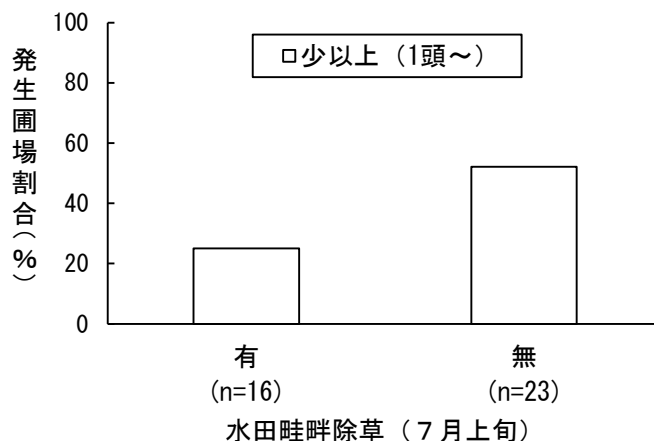


図3 水田畦畔の除草の有無とカスミカメムシ類発生圃場割合  
(7月上旬巡回調査、水田畦畔、往復20回振)

☆現在、農薬危害防止運動実施中(6/1~8/31)☆

【利用上の注意】

- ・農薬は、使用前に必ずラベルを確認し、使用者が責任を持って使用しましょう。
- ・農薬使用の際には、(1)使用基準の遵守(2)飛散防止(3)防除実績の記帳 を徹底しましょう。

【情報のお問い合わせは病害虫防除所まで】 TEL 0197(68)4427 FAX 0197(68)4316

☆この情報は、いわてアグリベンチャーネットでもご覧いただけます。

アドレス <http://i-agri.net/Index/gate003>